

○取組事例を学び地域再生(農地等の維持)を検討

(南丹市南丹地区(地域再生グループ)小委員会第1回会議)

担い手への
農地利用の
集積・集約化

遊休農地の
発生防止・
解消

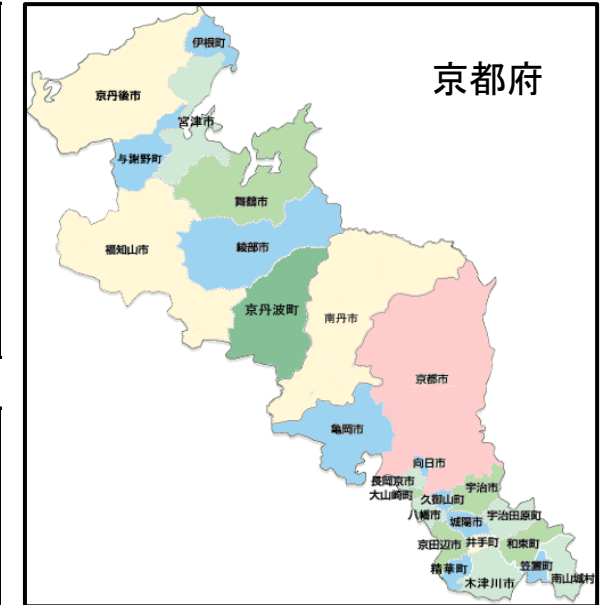
新規参入の
促進

その他
(農業委員会の
体制強化等)

1 活動の日時や時期、場所等

- 日時(時期): 平成31年3月7日午前9時～午後4時
- 場 所: 舞鶴市杉山、旧美山町鶴ヶ岡小学校
- 出席者: 委員10人、委員以外4人

- 報告者: 原田清弘 農業会議現地推進役



2 地区の特徴、状況、課題

○京都府のほぼ中央部に位置し、大半を丹波山地が占め山陰内陸性気候で京都市への通勤圏にあり年々農家数が減少している。水稲作が多くその他麦、豆類が栽培され、京のブランド産品(水菜、壬生菜、九条ねぎ、紫ずきん、黒大豆、小豆)の栽培が盛んである。
 ○農家戸数の減少、農業従事者の高齢化等が進行する中、農業の持続的な振興及び農地の多面的機能を維持していくためには、地域資源を活用しながら特産物の開発や育成することが重要な課題である。

3 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化推進の取組と工夫)

○住民の高齢化や鳥獣被害、耕作放棄地が増大する中、地域資源の活用と都市住民との交流を行い地域活性化を図っている事例(舞鶴市杉山)を視察調査
 ○視察調査の結果を活かすため、視察先と同様な(高齢化による耕作放棄地の増加)美山町鶴ヶ岡地区の住民組織と意見交換を実施
 ○住民の高齢化により多面的機能交付金の事務処理が困難となり、継続していくのができない状況で、集落単位の組織を旧村(鶴ヶ岡)の範囲で組織化して実施する方向で検討

4 活動結果

- 情報・意見交換 2 時間
- 担い手への集積 a 増加
- 遊休農地面積 a 解消
- 新規就農者 人 支援